



雪崩・地すべり 研究センターたより

季刊・第55号
2011. 1月発行

Snow Avalanche and Landslide Research Center, Erosion and Sediment Control Research Group

主な記事 ・ 年頭あいさつ ・ トピックス（雪崩・地すべり防止技術セミナー、学会、雪崩災害防止セミナー）

新年明けましておめでとうございます。



妙高山（センター近傍から撮影：平成23年1月8日）

昨年末は、西日本の日本海側を中心に「記録的な大雪」が降りました。

鉄道や道路に大きな混乱が生じた鳥取県をはじめ、鹿児島県など各地で12月の最深積雪の記録が更新されました。日本列島が「記録的な猛暑」に見舞われたのはほんの数ヶ月前です。夏の平均気温がこの113年間で最も高い年となりました。台風の発生数は14個と平年の半分程度の「記録的な少なさ」となり、過去60年ほどの最少記録を更新しました。

さて、これまでの観測記録によれば、これから1～2月は表層雪崩が数多く発生し、気温が上がってくる春先には全層雪崩が増えてきます。雪融けが進み、地すべりが数多く発生し始めるのは例年3～4月です。災害調査など技術支援の要請が徐々に当センターに寄せられる時期でもありますが、被害に苦しむ地域が「記録的な少なさ」となることを祈るばかりです。

当センターでは、今後とも斜面災害による被害の軽減に役立つ技術の開発に取り組んで参りますので、皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

トピックス

■雪崩・地すべり防止技術セミナー

10月26日に、新潟県妙高市において「第5回雪崩・地すべり防止技術セミナー」が開催されました。セミナーでは、国土技術政策総合研究所山下危機管理技術研究センター長により「大規模土砂災害の危機管理について」と題して講演をいただきました。当センターからは、「レーザー計測データを用いた雪崩発生域と非発生域の地形・植生状況の比較」、「活断層周辺における地震による地すべりの危険度評価の試み」について紹介しました。



トピックス

■クロアチア共和国の大学関係者など来訪

10月12日に、新潟大学の丸井教授らとともに、クロアチア共和国の地質調査所、ザグレブ大学、リエカ大学、スプリット大学から4名の技術者や助手の方々が当センターを訪れました。



当センターでは、野呂所長が当センターの紹介、ハスパートル専門研究員が地震による地すべりに関する研究成果を紹介し、質疑応答を行いました。また、研究施設では、土の強度を求めるリングせん断試験機を視察していただきました。

■学会研究発表会

10～12月には、4つの学会研究発表会が開催されました。当センターでは、雪崩関係で3課題、地すべり関係で4課題の研究成果を発表しました。



| 学会名 | 開催日 | 開催場所 | 発表課題名 | 発表者 |
|---------------------------|-----------|---------|------------------------------------|--------|
| 全国地すべりがけ崩れ対策協議会第64回研究発表大会 | 10月21～22日 | 栃木県宇都宮市 | レーザー計測データを用いた雪崩発生域と非発生域の地形・植生状況の比較 | 伊藤 |
| | | | 地震による地すべりの多発範囲－逆断層地震の例－ | ハスパートル |
| 地下水学会2010年秋季講演会 | 11月11～12日 | 和歌山市 | 地すべり地における地下水排除施設集水管の閉塞までの期間に関する検討 | 丸山 |
| 第25回北陸雪氷シンポジウム | 11月16日 | 金沢市 | 地震計を用いた雪崩検知と地震動との識別手法の検討 | 伊藤 |
| 第26回寒地技術シンポジウム | 12月8～10日 | 札幌市 | 2010年2月6日志賀高原で発生した雪崩 | 伊藤 |

■長野県飯山・中野地域地すべり協議会員来訪

11月17日に、長野県飯山・中野地域の地すべり協議会員約30名が来訪されました。この協議会は、飯山・中野地域に顕在する地すべり危険地域の早期安定と民生の恒久的安定の促進に寄与するためのものです。今回の来訪は、会員の技術研鑽等を目的とした先進地視察研修の一環として行われました。



当センターでは、丸山総括主研による地すべりに関する基礎的な講演を聴いていただき、その後研究

施設の視察をしていただきました。会員のみなさんからは、当センター発足の経緯や研究活動についての質問がありました。

■雪崩災害防止セミナー

12月3日に岐阜市で第4回雪崩災害防止セミナーが開催されました（主催：土木研究所、共催：雪崩防災シンポジウム実行委員会、後援：国土交通省中部地方整備局）。

セミナーでは、名古屋大学西村教授による「雪崩の基礎知識と現場での活用」の講演に続いて、国土交通省河川局砂防部保全課林課長補佐による「国内における雪崩災害防止の取り組み」、寒地土木研究所雪氷チーム松下研究員による「最近の道路雪崩対策の課題と研究への取り組み」、当センターの伊藤研究員による「航空レーザー計測データを用いた雪崩危険範囲の絞り込みの検討」の発表が行われました。

■第5回「地すべり防止施設点検学習会」

国土交通省利根川水系砂防事務所、群馬県砂防課主催による「第5回地すべり防止施設点検学習会」が、12月20～21日に群馬県藤岡市で開催されました。

この学習会は、関東甲信地区の国、都県、研究機関の地すべり担当者が、地すべり防止施設の維持管理手法について学習するものです。20日の学習会では、当センターの丸山総括主任研究員が「地すべり防止施設の維持管理－地表水・地下水排除施設－」、地すべりチームの阿部研究員が「地すべり防止施設の維持管理のための調査法について」と題して講義を行いました。21日には譲原地すべりで現地実習が行われ、集水井や集水ボーリング内部の点検手法や排水のpH、鉄分量の計測手法の研修などが行われました。



ニュートンのリンゴの木

10月13日に、リンゴの収穫をしました。収穫したリンゴの直径は6cm前後であり、数は46個でした。今年もカラスよけのネットを張り、リンゴが熟すのを待ちました。しかしながら、たくさんのリンゴがなったのですが、熟すまでにほとんど落果してしまいました。リンゴの木の管理は難しいですね。来年の豊作を期待します。



雪崩・地すべり研究センターに関する記事は、ホームページにも掲載しておりますので、ご覧下さい。

発行：独立行政法人 土木研究所 つくば中央研究所
土砂管理研究グループ 雪崩・地すべり研究センター
住所：〒944-0051 新潟県妙高市錦町2-6-8
TEL:0255-72-4131 FAX:0255-72-9629 URL: <http://www.pwri.go.jp>
掲載内容は現時点までの調査結果等に基づいています。今後の調査研究により内容の一部または全部に変更が生じる場合があることをご了承下さい。